

令和 6 年度実績

献血くまもと



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society



日赤プラザ 献血ルーム



熊本県



熊本県赤十字血液センター

はじめに

県民の皆様には、日頃から献血への御理解と御協力をいただき、誠にありがとうございます。昨年度も多くの方々からの献血への御協力や温かい御支援により、輸血を必要とする患者さんの尊い命を救うことができました。改めて感謝申し上げます。

熊本県の献血をとりまく状況は、少子高齢社会を迎える献血できる方の人数は減少しつつあります。加えて若年層の献血率は依然として低く、血液事業を安定的・継続的に維持できるよう広く理解を求めていく必要があります。

熊本県では、第8次熊本県保健医療計画の中で、若年層の献血率を評価指標として定め、関係機関と連携し、はたちの献血キャンペーンや学生向けの献血セミナーなど若年層が献血に触れる機会を増やすことで機運の醸成を図っています。

献血でいただいた血液は、けがをした時の輸血だけでなく、がんや血液等の病気の治療にも使用されています。一方で、輸血に使用する血液は、まだ人工的に造ることができず、長期保存することもできません。血液製剤を安定的に供給するためには、1年を通じて多くの県民の皆様の継続的な御協力が不可欠です。

献血は、身边にできる命をつなぐボランティアです。これまで献血をしたことがある方は引き続きの御協力を、献血の経験がない方には、是非、新たな一步を踏み出していただき、一人でも多くの皆様の御協力をお願い致します。

熊本県としましては、熊本県赤十字血液センターをはじめとする関係機関と連携を図りながら、血液製剤の安定供給を通じて、県民の皆様の命と健康を守って参りますので、今後とも御協力を宜しくお願い致します。

熊本県知事

木村 敬



ごあいさつ

平素は、皆様に献血のご協力をいただき大変感謝申し上げます。

昨年は新型コロナウィルスの感染拡大前とほぼ同様の献血・輸血体制に回復しました。献血Web会員サービス『ラブラッド』アプリが導入されて2年以上経過し、熊本県でも献血日時を予約して来られる方が、成分献血で95%、全血献血で50%となり、献血での待ち時間が短縮できるようになりました。献血可能であるかの問診についてもアプリを用いて事前に回答できるため、頻回に献血をしていただく方には大変便利になりました。また、献血年齢に満たない16歳未満の方でも『プレ会員』として登録できる等、将来に亘って継続して献血にご協力いただけるよう、充実したサービスの提供を進めております。今後もより一層予約率を向上させて、献血待ち時間の短縮と血液製剤の安定供給に寄与していきたいと思っています。

昨年は、献血者の皆様、医療機関の皆様、そして血液センター職員との密な連携により、一年間を通して血液製剤を安定供給することができました。熊本県におきましては、大雪や台風等の自然災害発生時も、医療機関に対して前倒しの発注や在庫を増やしていただく等、十分な協力体制が構築され、スムーズに供給できました。血液製剤は、有限な資源で、種類によって有効期限も違い、赤血球製剤は28日間、血小板製剤は4日間、血漿製剤は1年間です。また輸血を行う際には、血液型なども合わせる必要があり、皆様から献血して頂いた貴重な血液製剤を、過不足なくお届けしていくためには、今後も更なる効率的な献血・輸血体制を構築していくことが大切です。

今年の夏には、血小板製剤に細菌スクリーニング検査が導入され、有効期限もわずかですが延長される予定です。しかしながら、製品化までの所要時間が少しづれるため、血小板献血を特にお願いする曜日を調整していかなければなりません。

最後に、多くの患者さんの命を守るために、今後もより多くの皆様からの継続的な献血をお願いするとともに、医療機関の皆様と献血者の皆様の気持ちを繋いで、さらに信頼を得られるよう、血液センター職員一丸となって今年も精進してまいります。より一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



令和7年4月1日
熊本県赤十字血液センター
所長 米村 雄士

CONTENTS

ごあいさつ	1	献血功労表彰	14
献血の成り立ち	2	医薬情報活動	14
熊本の献血のあゆみ	3	供給状況	15
献血から輸血まで	4	ボランティア	16
献血方法別の採血基準	6	熊本県学生献血推進協議会	16
献血の流れ	7	献血推進・広報活動	16
献血 Web会員サービス「ラブラッド」	8	ありがとうのメッセージ	18
検査成績のお知らせ	9	骨髓バンク事業	19
献血状況	10		

献血の成り立ち

我が国における血液事業は、戦後まもなく、民間、日本赤十字社及び公立の血液銀行によって始められましたが、その大部分は民間製薬会社による売血に依存したものであったため、「黄色い血液」と呼ばれる輸血用血液の品質低下や輸血後肝炎の多発などの弊害が増加し、大きな社会問題となりました。

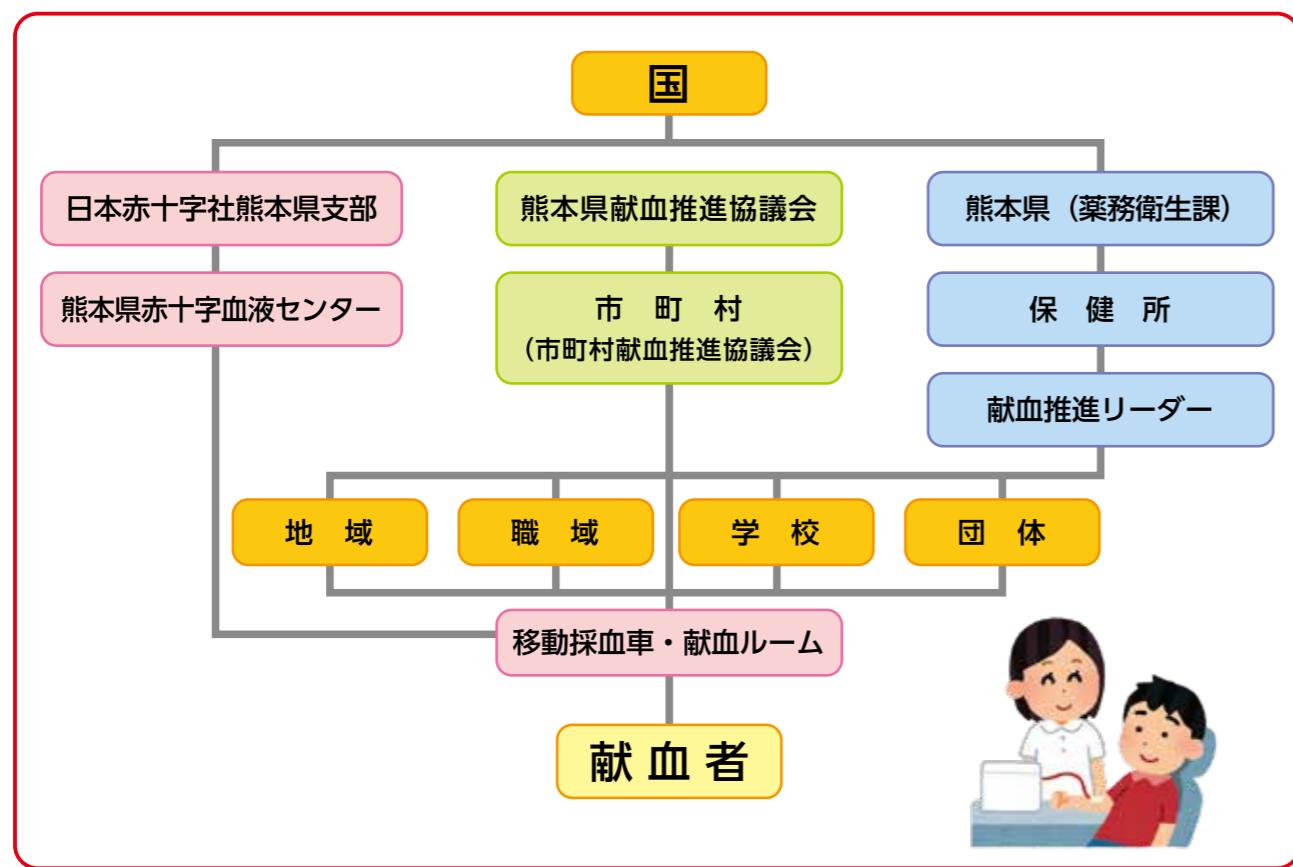
このため国は、昭和39年8月21日に、「献血の推進について」の閣議決定を行い、献血は、国、地方公共団体及び日本赤十字社の三者が一体となって推進することが明確になりました。これにより、献血思想の普及・献血者の確保・組織化については、国及び地方公共団体が中心となって行い、献血の受け入れから検査・製剤・供給までを赤十字社が行う体制が整えられ、すべての輸血用血液は、献血により確保されることとなりました。

また、輸入された血漿分画製剤により多くの血友病患者がエイズに感染するという不幸な歴史を教訓として、血液製剤の安定供給等をめざす「国内自給の確保」を基本理念とした「**安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律**」が平成14年7月31日に公布され、平成15年7月30日から施行されました。

国及び地方公共団体の責任を明確化

血液製剤の安全性の向上や安定供給の基本方針を国が定め、国内自給に向けた献血に対する国民への理解促進、ならびに血液製剤の使用適正化の推進は国の責務であるとされました。また、国は毎年度ごとに、必要な献血血液の確保目標量や献血推進計画を策定することとなり、各都道府県・市町村も含めて、献血推進の主体が行政にあることが明確になりました。

献血推進機構



熊本の献血のあゆみ

年度	200mL献血	400mL献血	成分献血	合計
S39	998			998
40	11,919			11,919
41	21,210			21,210
42	35,711			35,711
43	38,535			38,535
44	38,644			38,644
45	39,241			39,241
46	40,641			40,641
47	44,926			44,926
48	49,903			49,903
49	56,625			56,625
50	57,965			57,965
51	74,001			74,001
52	88,544			88,544
53	115,056			115,056
54	133,290			133,290
55	154,650			154,650
56	172,863			172,863
57	176,970			176,970
58	176,687			176,687
59	197,177			197,177
60	192,075			192,075
61	148,881	33,852	454	183,187
62	136,414	36,299	1,789	174,502
63	135,110	38,961	2,252	176,323
平成元	129,738	39,454	3,327	172,519
2	116,208	40,128	10,338	166,674
3	108,923	43,269	26,003	178,195
4	89,478	43,986	34,861	168,325
5	63,466	45,011	40,815	149,292
6	49,500	50,411	40,469	140,380
7	42,525	49,941	31,576	124,042
8	43,751	50,109	31,714	125,574
9	47,602	51,073	32,068	130,743
10	43,615	54,818	34,414	132,847
11	43,677	54,518	32,122	130,317
12	35,087	57,163	30,811	123,061
13	27,423	57,465	30,883	115,771
14	22,367	54,954	27,223	104,544
15	10,714	54,993	26,496	92,203
16	9,430	52,581	26,862	88,873
17	8,385	56,596	25,385	90,366
18	4,813	55,301	21,654	81,768
19	1,874	56,472	22,219	80,565
20	1,319	58,165	23,445	82,929
21	1,061	60,846	22,866	84,773
22	1,070	61,624	21,513	84,207
23	1,001	59,507	22,623	83,131
24	1,351	58,831	22,408	82,590
25	1,174	56,269	22,663	80,106
26	825	55,817	19,739	76,381
27	1,113	56,422	17,075	74,610
28	953	45,862	15,276	62,091
29	1,083	51,294	17,967	70,344
30	1,184	51,443	19,138	71,765
令和元	1,308	52,385	20,706	74,399
2	1,185	53,237	22,647	77,069
3	1,262	52,006	21,794	75,062
4	851	50,717	21,181	72,749
5	863	51,313	22,603	74,779
6	547	52,506	21,953	75,006
累計	3,254,762	2,005,599	889,332	6,149,693

年	推 移
昭和39	献血についての閣議決定
40	熊本県献血推進協議会設置 熊本県赤十字血液センター開所 移動採血車しろはと号による献血開始 市町村献血推進協議会設置始まる
43	日赤熊本県支部・血液センター合同社屋新設
44	献血者10万人突破 水俣出張所開設
46	98全市町村に献血推進協議会設置完了
48	熊本県R h (-) 友の会発足
50	日赤熊本、現在地に新築移転
52	献血者50万人突破 血液検査サービス開始
54	献血率で日本一
56	献血者100万人突破
57	献血手帳の「供給欄」廃止
59	下通り献血ルーム設置
60	献血制度20周年記念熊本県民大会
61	400mL献血・成分献血の開始 献血者200万人突破 エイズ抗体検査開始
63	エイズ自己申告制度開始
平成元	日本血液事業学会を熊本市民会館で開催
2	市町村におけるオープン採血による成分献血の開始 第26回献血運動推進全国大会を県立劇場で開催
3	成分献血のための移動採血車の運行開始 熊本県骨髄データセンター設置
4	献血者300万人突破
5	下通り献血ルーム10周年記念イベント
6	献血制度30周年記念熊本県民大会
9	日赤熊本県支部・血液センター合同社屋現在地に新築 下通り献血ルーム献血者50万人突破 県庁献血ルーム「ハービット県庁」設置
11	献血可能年齢69歳へ引き上げ HTLV-1検査結果陽性の通知開始
12	献血者400万人突破 「ありがとう献血」熊本県民大会
14	県庁献血ルーム「ハービット県庁」閉館 「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」公布及び第16条（有料での採血等の禁止）施行
15	「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」の全面施行 輸血用血液製剤の遡及と調査開始
16	下通り献血ルーム20周年記念イベント 献血受付の際の本人確認開始
17	下通り献血ルーム移転
18	献血手帳の磁気カード化 献血者健康被害救済制度開始
19	全血液製剤で保存前白球除去開始 熊本県R h (-) 友の会解散 全血液製剤で初出血除去開始
20	九州ブロック血液センターの検査・製剤部門集約 検査サービス通知に糖尿病関連検査追加
21	献血者500万人突破
23	献血可能年齢の拡大及び血色素量下限値の引き上げ 問診事項の一部改正
24	全国7ブロック広域事業運営体制へ移行
26	血液事業情報システム全国一斉導入 個別NAT（核酸増幅検査）開始
27	血液センター開所50周年記念式典
29	血小板成分献血上限血漿採血量の引き上げ 下通り献血ルーム移転（下通り献血ルームCOCOSAに名称変更）
30	献血受付における本人確認方法の厳格化 献血可能日の1年間の算定方法変更 下通り献血ルーム献血者100万人突破 献血推進・予約システム全国一斉導入
令和2	HEV NAT（核酸増幅検査）開始 健康診断基準の変更（血圧・脈拍・体温） 全血採血（移動採血車）指先穿刺による事前検査開始 がんの問診判断基準の変更 献血者顕彰規定の変更
令和3	全血採血（固定施設）指先穿刺による事前検査開始
令和4	ラブリッドアプリの導入
令和5	献血者600万人突破 赤血球製剤の有効期間が採血後21日から28日に変更 来場した全ての献血者の体重測定を開始
令和7	日赤プラザ献血ルームが20年ぶりにリニューアルオープン

献血から輸血まで

熊本県では、1日平均200名の献血が必要とされています。

献血いただいた血液は、九州ブロック血液センター（福岡県久留米市）で、赤血球・血漿・血小板に分離され、輸血の安全性を確保するための厳しい検査を行います。輸血用の血液は、各県にある血液センターから、医療機関へ届けられています。

現在、県内で必要とする殆どの血液が皆さまの献血によって確保されています。

献血



移動採血車



日赤プラザ献血ルーム



下通り献血ルームCOCOSA



熊本県では
上記の場所で
献血できます



日本赤十字社九州ブロック血液センター（福岡県久留米市）



製剤部門

献血されたすべての血液は必要に応じて、いろいろな血液成分に分離され有効利用されます。



検査部門

献血されたすべての血液は、輸血用として安全かどうか厳しく検査されます。

安全な輸血のために必要な検査

- 血液型検査**
ABO 血液型検査、Rh 血液型検査、不規則抗体検査、HLA 検査（一部）
- 感染症検査**
梅毒血清学的検査、B 型肝炎ウイルス検査（HBs 抗原、HBs 抗体、HBC 抗体）、C 型肝炎ウイルス検査（HCV 抗体）、エイズウイルス検査（HIV-1、2 抗体）、HTLV-1 抗体検査、ヒトパルボウイルス B19 抗原検査
- 生化学検査（7 項目）**
- 血球計数検査（8 項目）**
- 核酸増幅検査**
B 型肝炎ウイルス検査、C 型肝炎ウイルス検査、E 型肝炎ウイルス検査、エイズウイルス検査

輸血用
血液製剤

原料血漿



熊本県赤十字血液センター

供給部門

輸血用血液製剤は血液センターで安全に保管管理し、医療機関へお届けします。



赤血球製剤

有効期間：採血後 28 日間

血漿製剤

有効期間：採血後 1 年間

血小板製剤

有効期間：採血後 4 日間

国内分画製剤メーカー

成分ごとに分けられた血液（血漿）の一部は、血漿分画製剤の原料（原料血漿）として血漿分画製剤メーカーへ配分されます。原料血漿はさらに様々な成分に精製され、20種類以上の血漿分画製剤となります。



血漿分画
製剤等
免疫グロブリン

免疫グロブリン製剤

免疫機能が低下した場合や重症感染症、ある種の神経疾患、川崎病などに使われます。

アルブミン製剤

やけどや出血性ショックなどに使われます。

血液凝固第VII因子製剤

血友病などに使われます。



医療機関

献血方法別の採血基準

献血にご協力いただく方の健康を考慮し、下記のような採血基準が設けられています。

献血方法別の採血基準

献血の種類 項目	全 血 献 血		成 分 献 血	
	200mL 献血	400mL 献血	血漿成分献血	血小板成分献血
1回献血量	200mL	400mL	600mL 以下 (循環血液量の 12% 以内)	
年 齢	16 歳～ 69 歳*	男性 17 歳～ 69 歳* 女性 18 歳～ 69 歳*	18 歳～ 69 歳*	男性 18 歳～ 69 歳* 女性 18 歳～ 54 歳
体 重	男性 45kg 以上 女性 40kg 以上	男女とも 50kg 以上	男性 45kg 以上	女性 40kg 以上
最高血圧	90mmHg 以上 180mmHg 未満			
最低血圧	50mmHg 以上 110mmHg 未満			
脈 拍	40 回 / 分以上 100 回 / 分以下			
体 温	37.5°C 未満			
血色素量 (ヘモグロビン濃度)	男性 12.5g/dL 以上 女性 12.0g/dL 以上	男性 13.0g/dL 以上 女性 12.5g/dL 以上	12.0g/dL 以上 (赤血球指数が標準域にある女性は 11.5g/dL 以上)	12.0g/dL 以上
血小板数	—	—	—	15 万 / μ L 以上 60 万 / μ L 以下
1年に献血できる回数 (1年は 52 週として換算)	男性 6 回以内 女性 4 回以内	男性 3 回以内 女性 2 回以内	血小板成分献血 1 回を 2 回分に換算して 血漿成分献血と合計で 24 回以内	
1年に献血できる総献血量 (1年は 52 週として換算)	200mL 献血と 400mL 献血を合わせて 男性 1,200mL 以内 女性 800mL 以内	—	—	—

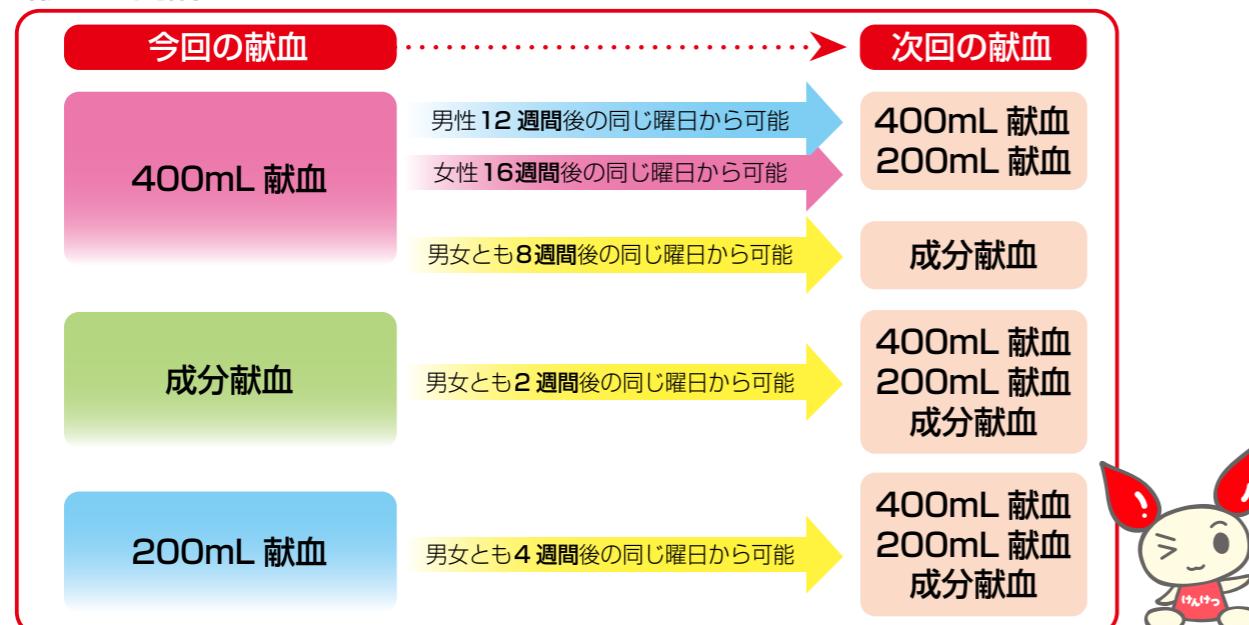
* 65 歳から 69 歳までの方は、60 歳から 64 歳までの間に献血の経験がある方に限ります。

■各献血方法に共通する基準は次のとおりです。これらの項目に該当する場合は、ご本人の安全のために献血をご遠慮いただいています。

- 献血により悪化するおそれがある循環器系疾患、血液疾患、その他疾患にかかっている人。
- 健康状態が不良と認められる人。
- 妊娠していると認められる人。または過去 6 か月以内に妊娠していたと認められる人。



献血の間隔



献血の流れ

①献血受付

「献血前にお読みください」及び「献血の同意説明書」の内容をご理解いただき、同意をされたうえでお申し込みいただきます。安全で責任ある献血をお願いするために身分証明書等の提示をお願いし、生体（指静脈）認証もしくは暗証番号で本人確認を行います。
※お申し込みの際の個人情報（住所・氏名など）は厳重に管理されており、外部に流出する恐れはありません。



②事前問診

献血される方と輸血を受ける患者さん双方の安全を守るために、献血いただく方の健康状態を伺う質問に回答していただきます。



②事前の問診（アプリの場合）

当日になるとラブラッドアプリの“事前の問診回答の開始”から予め事前問診に回答いただけます。



③問 診

回答いただいた内容に基づき、医師による問診を行います。



④ヘモグロビン濃度測定・血液型事前検査

ヘモグロビン濃度の測定と血液型の事前検査を行います。成分献血の場合は、血小板数の測定も併せて行います。



⑤採 血

採血にかかる時間は、400mL 献血は 10～15 分程度、成分献血は採血量に応じて 40～90 分程度かかります。

※採血針や採血バッグ等は一人ひとり新しいものを使用しています。



⑥休 憩

献血後は十分に水分を補り、10 分以上休憩していただきます。



⑦履歴の更新

アプリの方は、履歴・次回献血可能日ともに自動更新されます。

献血カードの方は献血カードをお渡しします。献血カードには次回献血可能日等が印字してあります。

献血 Web 会員サービス「ラブラッド」



日本赤十字社は、平成 30 年 10 月に利用者の方へのサービス向上を目的に、複数回献血クラブ(平成 18 年開設)を献血 Web 会員サービス「ラブラッド」へとリニューアルしました。さらに、令和 4 年 9 月に「ラブラッド」アプリをリリースし、一層の献血予約の推進を図るとともに、「アプリ版献血カード」や「事前 Web 問診回答機能」の導入、「プレ会員」の登録等を開始しました。

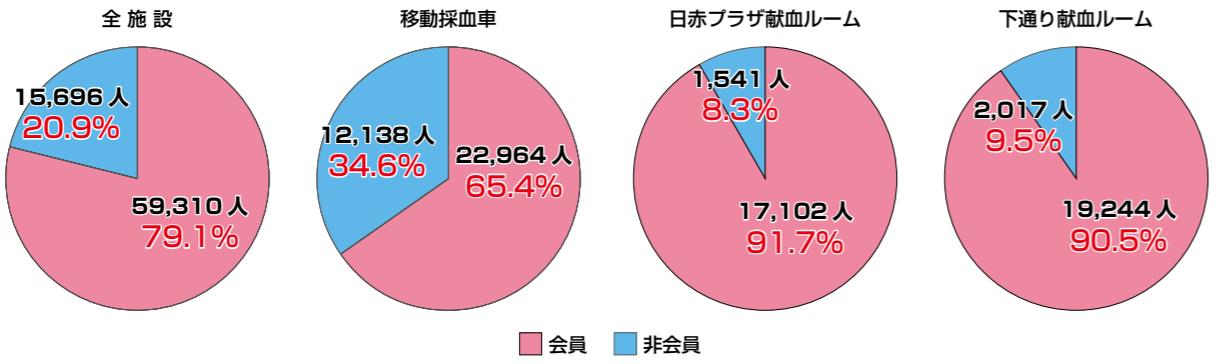


会員数

(令和 7 年 3 月 31 日現在)

	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
新規登録者数	1,082	4,528	4,012	8,202	7,039	6,455	7,661
総会員数	9,451	13,979	17,981	26,177	33,029	39,480	47,366

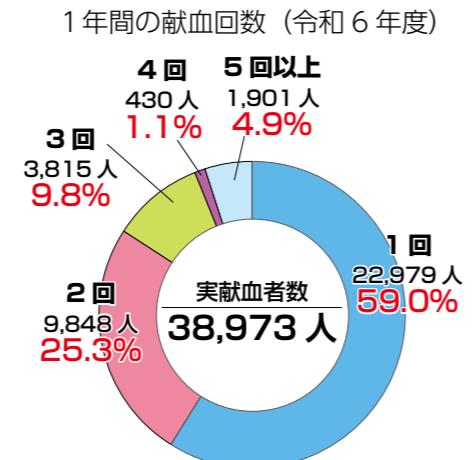
献血者に占める会員比率



一年間に複数回の献血をお願いします

県内の献血者の内、約 60% の方が、1 年に 1 回のみのご協力に留まっています。

輸血用の血液は年間を通して必要とされています。
定期的な献血のご協力を、是非お願いします。



検査成績のお知らせ

献血にご協力いただいた方々への感謝の気持ちとして、7 項目の生化学検査成績及び 8 項目の血球計数検査成績をお知らせしています。これらの検査成績はいずれも通知を希望された方を対象とし、献血後 2 週間程度で親展（書簡の郵便）にてお知らせします。献血 Web 会員サービス「ラブラッド」の会員は、血液検査結果が献血後 2 ~ 5 日程度で確認でき、平成 17 年 4 月 1 日以降の記録を確認することができます。生化学検査及び血球計数検査欄に記した標準値は、献血された方々の検査結果から算定したもので、正常はまた異常を表すものではありません（グリコアルブミンを除く）。また、献血受付時に、B 型肝炎検査、C 型肝炎検査、E 型肝炎検査、梅毒検査、H T L V – 1 抗体検査の結果通知を希望された方には、異常を認めた場合、献血後 1 ヶ月以内に上記の通知とは別に親展（書簡の郵便）にてご通知します。

生化学検査

検査項目	説明
ALT (GPT)	肝臓に最も多く含まれる酵素です。肝細胞が破壊されると血液中に流れ出るので、急性肝炎で最も強く上昇し、慢性肝炎や脂肪肝（肥満）などでも上昇します。激しい運動の後に一過性の上昇がみられることがあります。
γ-GTP	肝・胆道・肺・腎などに多く含まれる酵素です。上昇する疾患は閉塞性黄疸、肝炎、アルコール性肝障害などです。病気がなくても長期飲酒者では上昇することが多く、1 ヶ月くらい禁酒するとある程度正常化します。
総蛋白 TP	血清中には 80 種類以上の蛋白が含まれ、種々の機能を持ち、生命維持に大きな役割を果たします。その総量を総蛋白として測定しています。
アルブミン ALB	血清蛋白の 50% 以上を占めるアルブミンは、病気などで栄養が悪くなると減少するため、健康診断のスクリーニングとして大きな意味があります。
アルブミン対グロブリン比 A/G	血清蛋白はアルブミン (A) とグロブリン (G) に分けられ、その比率は健康な人では一定の範囲にありますが、病気によってはその比率が変化（主として減少）してきます。
コレステロール CHOL	血清脂質の一つで、一般に脂肪の多い食事を続けていると上昇します。また肝臓などで作られ、肝・胆道・腎・甲状腺の病気でその値が上下することがあります。血清コレステロールが多くなると動脈硬化を起こしやすくなります。
グリコアルブミン GA	糖尿病の検査の一つです。過去約 2 週間の血糖値が低い状態が続いていると低下し、高い状態が続いていると上昇します。糖尿病では標準値より上昇します。標準値範囲内でも 15.6% 以上の場合は注意が必要です。

血球計数検査

検査項目	説明	貧血の有無を知る目安となります。
赤血球数 (RBC)	赤血球は血液の主な細胞成分で、酸素を肺から各組織へ運ぶ働きを持っています。	
ヘモグロビン濃度 (Hb)	血液の赤い色は赤血球に含まれるヘモグロビン（血色素）によるもので、赤血球の働きの中心となっています。	
ヘマトクリット値 (Ht)	ヘマトクリット値は一定の血液量に対する赤血球の割合（容積）をパーセントで表したものです。	
平均赤血球容積 (MCV)	赤血球 1 個の平均的容積、すなわち赤血球の大きさの指標となるもので、赤血球とヘマトクリット値から算出したものです。	
平均赤血球ヘモグロビン量 (MCH)	赤血球 1 個に含まれるヘモグロビン量を平均的に表したもので、赤血球数とヘモグロビン濃度から算出したものです。	
平均赤血球ヘモグロビン濃度 (MCHC)	赤血球の一定容積に対するヘモグロビン量の比をパーセントで表したもので、ヘモグロビン濃度とヘマトクリット値から算出したものです。	
白血球数 (WBC)	白血球は細胞などを貧食し免疫情報を伝達し、さらに免疫能を発現して生体防御にかかわっています。細菌感染症があると一般に白血球数は増加しますが、ウイルス感染症の場合はかえって減少することもあります。	
血小板数 (PLT)	血小板は出血を止めるための重要な働きを持ち、この値が極端に減少すると出血を起こしやすくなります。	

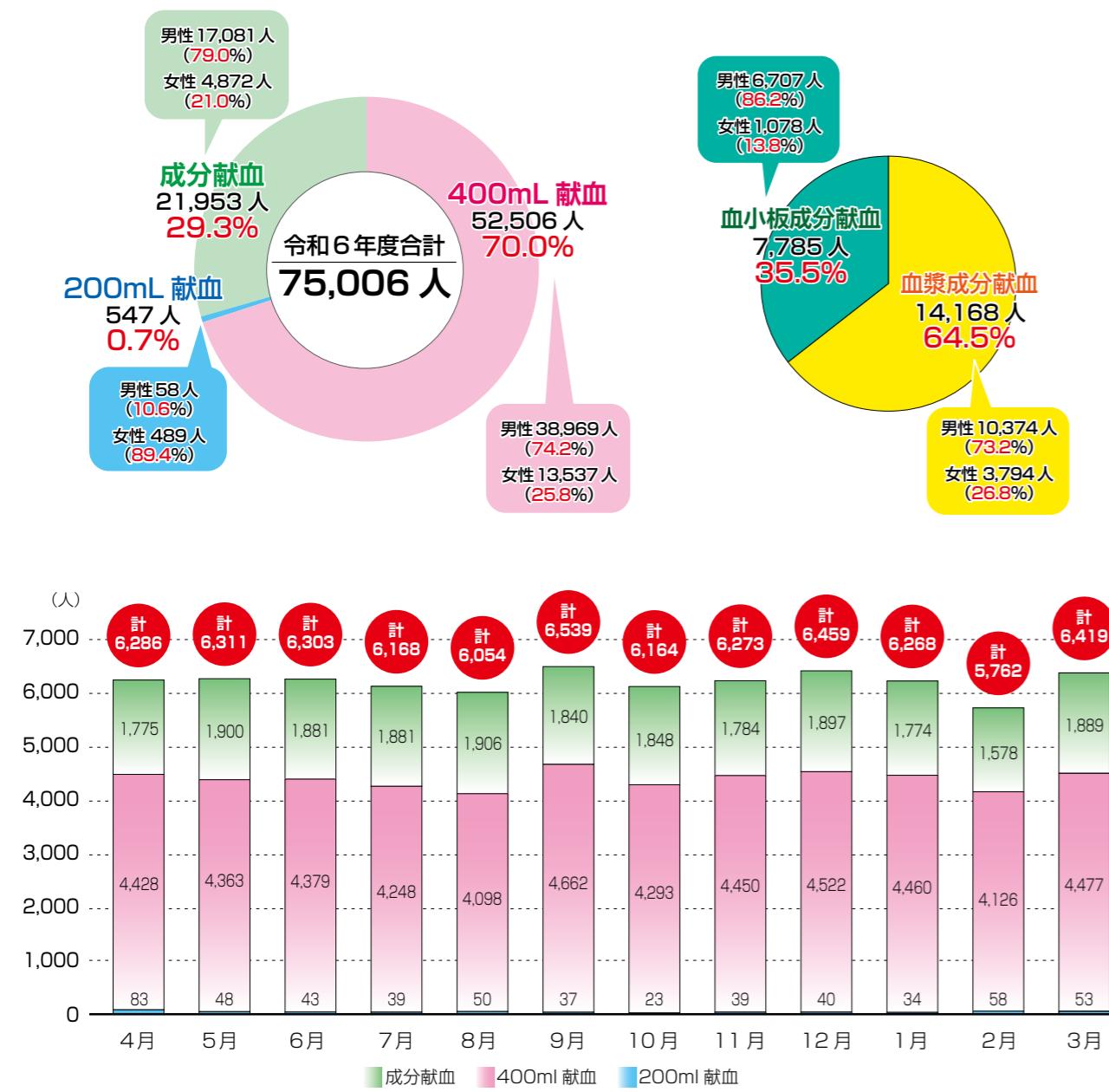
検査結果の確認は Web 会員サービス
「ラブラッド」 が便利です！



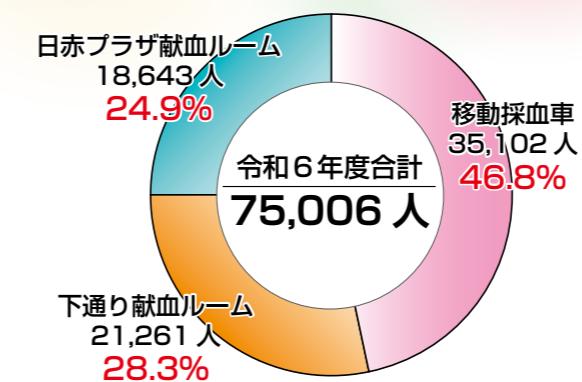
献血状況

令和6年度は、台風10号による移動採血の中止や、インフルエンザ患者数が過去最多になるのと同時に、血液の供給量が急増するなどしたため、血液の適正な在庫の維持に苦慮する時期もありましたが、75,006人（前年度比100.3%）と多くの県民の皆さまに献血のご協力をいただき、輸血を必要とする患者さんへ不足することなく血液をお届けすることができました。施設別の献血者数は、移動採血車35,102人（前年度比102.5%）、下通り献血ルーム21,261人（同105.5%）、日赤プラザ献血ルーム18,643人（同91.3%）となりました。

①献血種類別献血状況

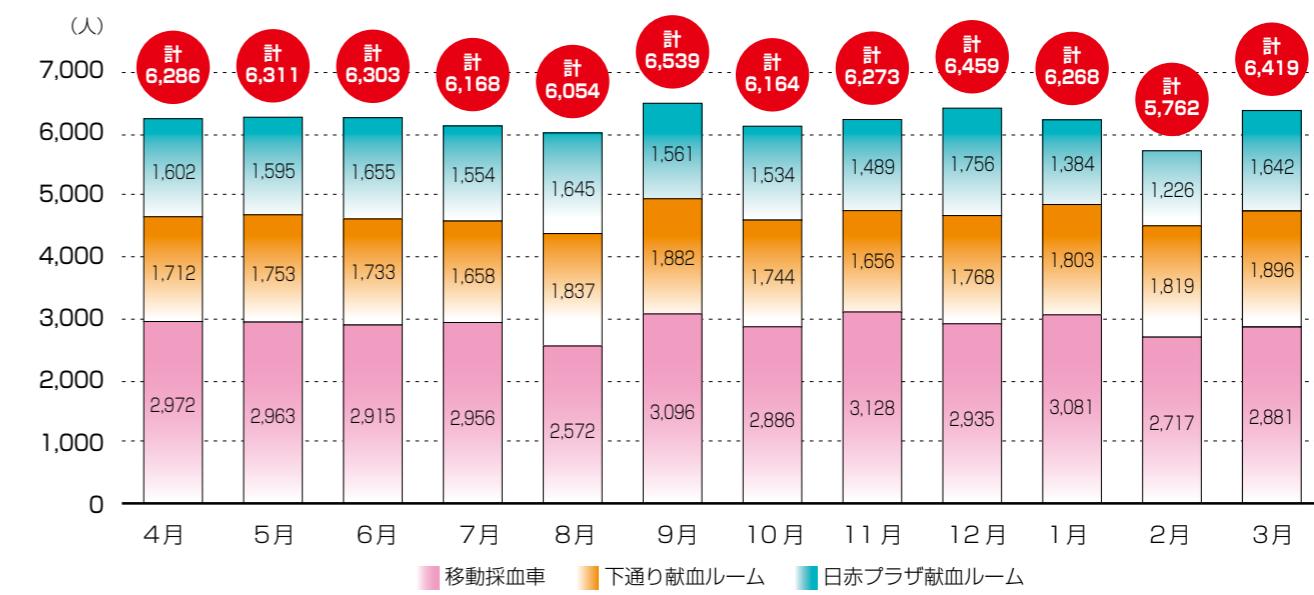


②受入施設別献血状況



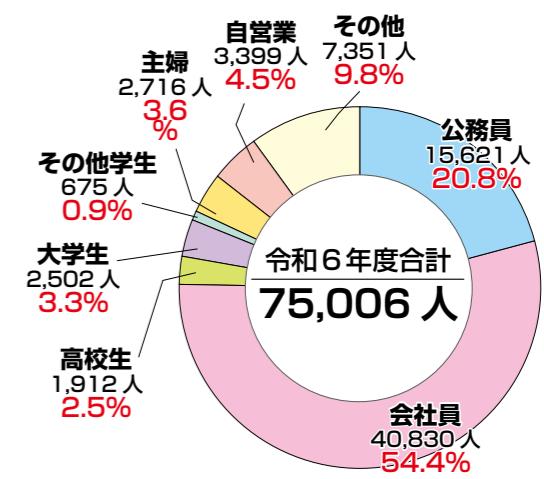
施設年間稼動数

移動採血車	680台
下通り献血ルーム	311日
日赤プラザ献血ルーム	292日



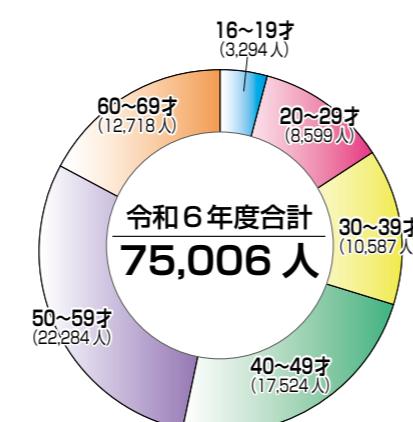
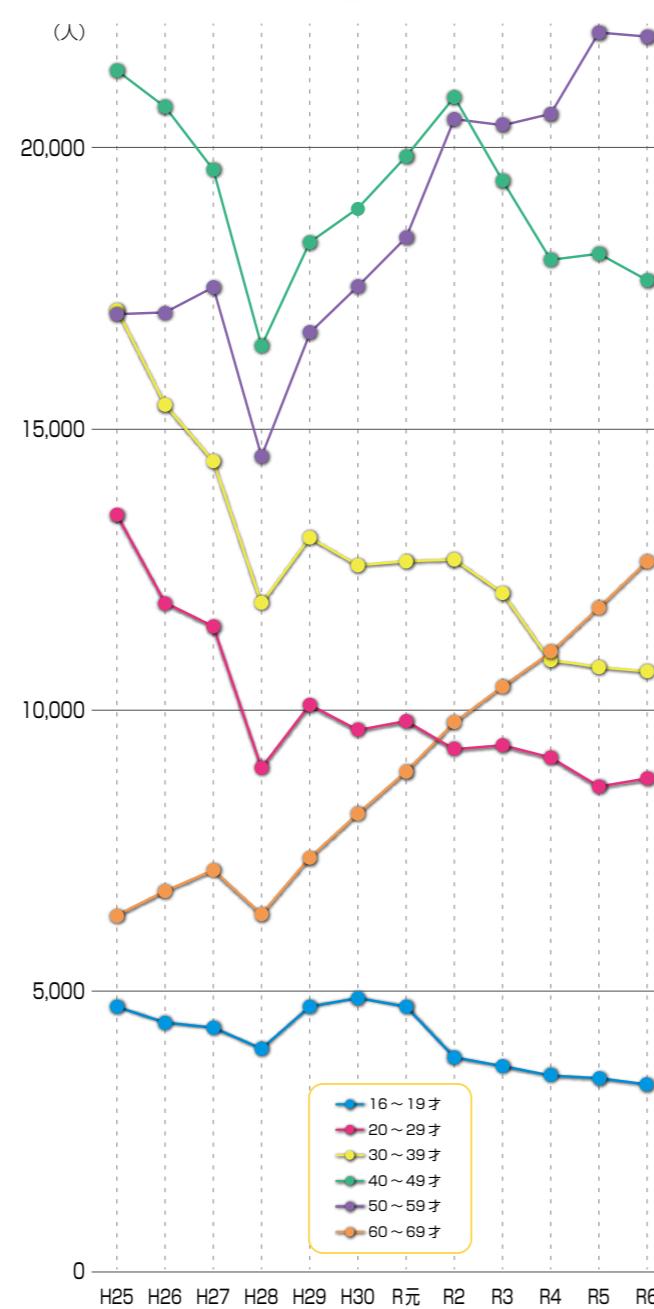
③職業別献血状況

	公務員	会社員	高校生	大学生	その他学生	主婦	自営業	その他	合計
令和元年度	14,675	38,738	2,390	3,041	1,358	2,990	3,773	7,434	74,399
令和2年度	15,790	41,173	2,340	2,303	847	3,112	3,813	7,691	77,069
令和3年度	15,868	39,430	2,021	2,627	968	2,903	3,575	7,670	75,062
令和4年度	14,997	38,743	1,871	2,739	895	2,719	3,352	7,433	72,749
令和5年度	15,398	40,653	1,817	2,397	799	2,682	3,436	7,597	74,779
令和6年度	15,621	40,830	1,912	2,502	675	2,716	3,399	7,351	75,006



④年齢別献血者数の推移

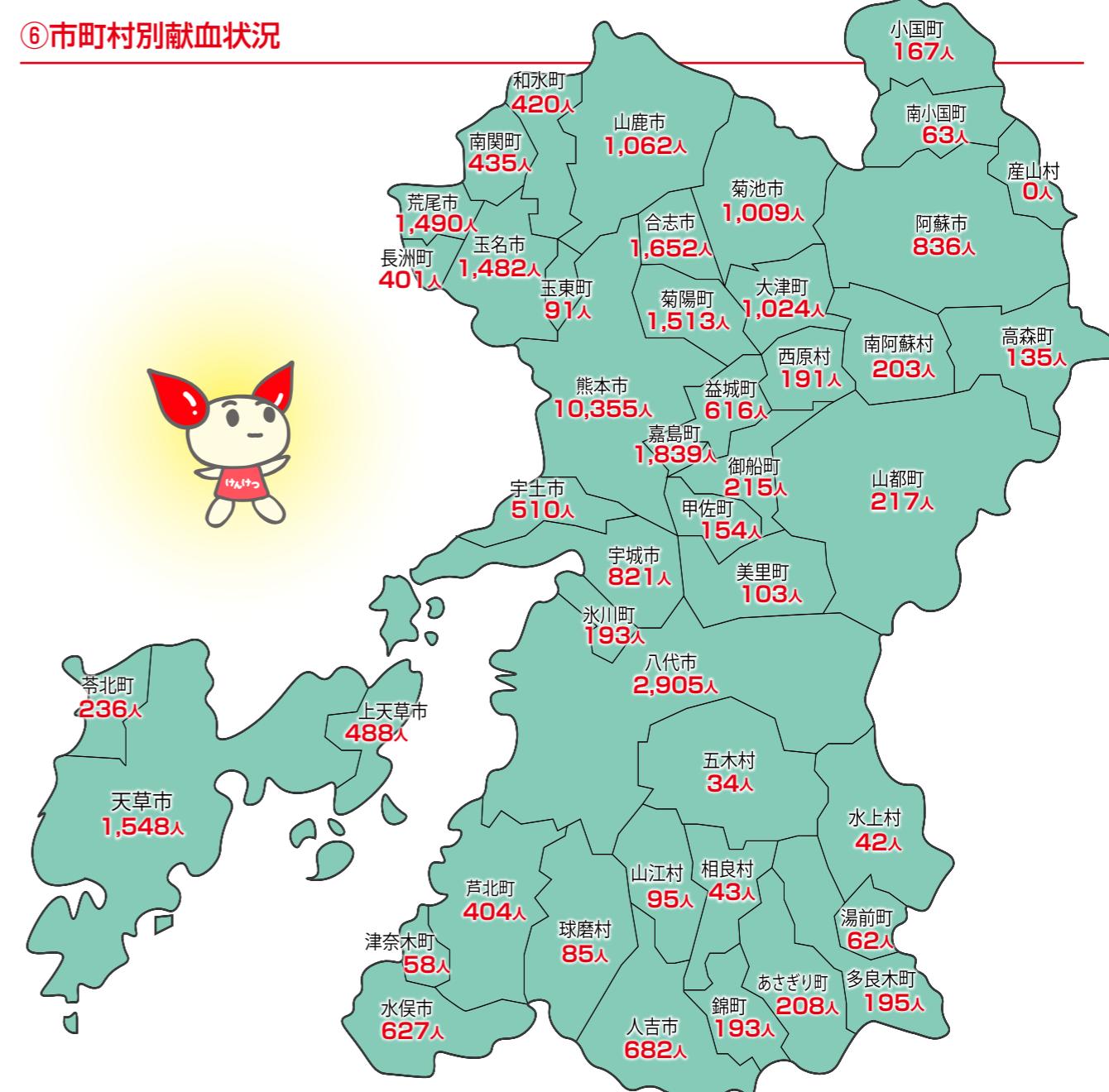
年度	16～19才	20～29才	30～39才	40～49才	50～64才		合計
S60	47,621	56,292	44,719	26,530	16,913		192,075
S61	42,820	52,344	45,200	25,968	16,855		183,187
S62	40,293	47,236	42,799	26,235	17,939		174,502
S63	41,467	46,108	42,044	27,785	18,919		176,323
H 1	41,422	42,588	39,918	28,989	19,602		172,519
H 2	40,889	40,207	37,548	28,854	19,176		166,674
H 3	42,232	44,185	39,798	31,222	20,758		178,195
H 4	38,398	42,727	36,524	30,380	20,296		168,325
H 5	32,235	38,736	32,338	27,695	18,288		149,292
H 6	27,215	38,407	30,508	26,806	17,444		140,380
H 7	22,836	34,501	27,038	24,633	15,034		124,042
H 8	22,023	35,743	26,645	25,921	15,242		125,574
H 9	21,413	37,449	27,946	26,964	16,971		130,743
H10	20,066	38,510	28,342	27,278	18,651		132,847
年度	16～19才	20～29才	30～39才	40～49才	50～59才	60～69才	合計
H11	18,401	36,709	28,063	26,840	15,666	4,638	130,317
H12	16,443	33,610	26,697	25,502	15,888	4,921	123,061
H13	13,430	31,248	25,857	24,533	15,613	5,090	115,771
H14	11,161	27,302	23,988	22,428	14,924	4,741	104,544
H15	7,623	23,487	21,945	20,386	14,345	4,417	92,203
H16	6,385	22,267	21,571	20,263	14,137	4,250	88,873
H17	6,401	22,116	22,162	20,417	14,896	4,374	90,366
H18	5,024	19,379	20,889	19,066	13,903	3,507	81,768
H19	4,238	18,804	20,532	19,119	14,165	3,707	80,565
H20	3,657	18,458	21,522	19,821	15,078	4,393	82,929
H21	3,534	17,420	21,470	20,691	16,445	5,213	84,773
H22	3,601	16,146	20,926	21,312	16,492	5,730	84,207
H23	4,104	15,060	19,943	21,419	16,657	5,948	83,131
H24	4,470	14,449	18,888	21,697	16,957	6,129	82,590
H25	4,729	13,478	17,122	21,380	17,049	6,348	80,106
H26	4,437	11,910	15,430	20,743	17,072	6,789	76,381
H27	4,364	11,495	14,438	19,619	17,531	7,163	74,610
H28	3,983	8,978	11,881	16,382	14,516	6,351	62,091
H29	4,727	10,098	13,068	18,334	16,728	7,389	70,344
H30	4,880	9,662	12,581	18,928	17,547	8,167	71,765
R 1	4,733	9,819	12,650	19,860	18,419	8,918	74,399
R 2	3,838	9,326	12,683	20,917	20,512	9,793	77,069
R 3	3,676	9,358	11,752	19,374	20,467	10,435	75,062
R 4	3,461	8,816	10,833	17,892	20,842	10,905	72,749
R 5	3,425	8,418	10,687	18,036	22,338	11,875	74,779
R 6	3,294	8,599	10,587	17,524	22,284	12,718	75,006



⑤初回献血者数の推移

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
初回献血者数	5,520 人	5,462 人	4,688 人	4,298 人	4,124 人	4,161 人	4,306 人
初回献血者割合	7.7%	7.3%	6.1%	5.7%	5.7%	5.6%	5.7%
献血者数	71,765 人	74,399 人	77,069 人	75,062 人	72,749 人	74,779 人	75,006 人

⑥市町村別献血状況



	200mL 献血数	400mL 献血数	成分献血数	献血者数
市 町 村	0	35,102	0	35,102
日赤プラザ献血ルーム	48	7,641	10,954	18,643
下通り献血ルームCOCOSA	499	9,763	10,999	21,261
計	547	52,506	21,953	75,006



令和6年度 献血功労団体表彰

日本赤十字社では、継続的に献血のご協力をいただいた団体、もしくは献血の推進活動にご功労のあった団体へ感謝の意を表し表彰を行っています。

厚生労働大臣表彰状	山鹿市 熊本市上下水道局 出水校区献血推進協議会 牛深商工会議所 メルシャン株式会社 八代工場 ライオンズクラブ国際協会 337-E 地区5Z 熊本大津ライオンズクラブ 荒尾市消防団 富田薬品株式会社 八代支店
厚生労働大臣感謝状	
日本赤十字社感謝状 (金色有功章受賞後10年ごと)	西田鉄工株式会社
金色有功章 (活動年数20年以上)	ライオンズクラブ国際協会337-E地区9Z パールラインライオンズクラブ
銀色有功章 (活動年数15年以上)	公益社団法人 玉名法人会 公益社団法人 山鹿法人会
日本赤十字社 熊本県支部長感謝状(金枠) (活動年数10年以上)	熊本県立東稜高等学校 熊本県熊本中央警察署 和水町地域婦人会 公益社団法人 熊本県宅地建物取引業協会八代水俣支部 ライオンズクラブ国際協会337-E地区10Z 山都ライオンズクラブ
日本赤十字社 熊本県支部長感謝状(銀枠) (活動年数5年以上)	社会福祉法人 白梅福祉会 JAくま上球磨営農センター 熊本県菊池警察署 熊本県自動車整備工業協同組合青年部阿蘇支部

医薬情報活動 R6年度実績

安全で適正な輸血療法が行えるよう、医療機関に対して輸血に関する最新の情報をお知らせする窓口として、学術情報・供給課があります。

ここでは、医療機関からの問い合わせに対応したり、万一、輸血副作用が発生した場合には、原因を調査してフィードバックを行い、医療機関が必要とする資料・文献の提供や、安全な輸血をめざして説明会を実施しています。

令和6年度の主な活動は、輸血用血液製剤関連資料（12種類）の配布や、副作用報告を6件、医療機関からの苦情処理対応を15件、輸血用血液製剤の取り扱い等についての説明会を14回実施しました。

また、12月には熊本県内の適正かつ安全な輸血療法の更なる向上を図るため、県主催の第15回熊本県合同輸血療法委員会講演会を開催し、72施設、149名の参加がありました。

その他、自己血輸血などにおける医療機関への技術協力の窓口としての活動も行っています。手術前に患者さん本人の血液を貯血し、手術時に使用するという自己血輸血では、1医療機関5名の患者さんの血液を調製・保管しました。



熊本県合同輸血療法委員会講演会（12月開催）の様子



供給状況

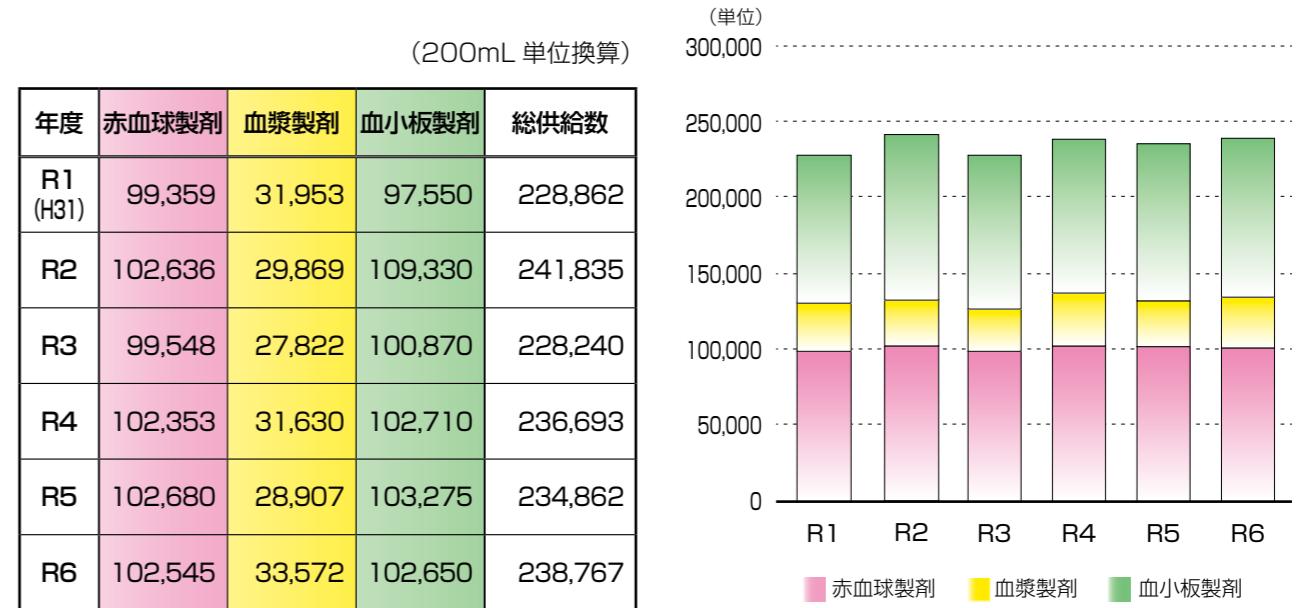
血液センターでは、いつでも医療機関の要請に応じられるように、24時間365日体制で輸血用血液製剤の供給を行っています。また、製剤別の過不足や、血液型別の片寄り、更には稀な血液型の患者さんの需要に対応するために、全国にある血液センターのネットワークを最大限に活用し、効率的、かつ迅速な供給に努めています。

令和6年度は、赤血球製剤102,545単位（前年度比99.9%）、血漿製剤33,572単位（同116.1%）、血小板製剤102,650単位（同99.4%）を供給しました。赤血球製剤と血小板製剤は昨年度並みの供給量でしたが、血漿製剤は大きく増加しました。



厳密な検査に合格し製造された貴重な血液製剤は、厳格な品質管理のもとに、製剤の種類毎に最も適した条件下で保管しています。

血液製剤別供給状況の推移



赤血球製剤

赤血球は、肺で取り込まれた酸素を全身に運ぶ役割があります。出血や血液疾患などが原因で赤血球が不足する状態、またはその機能低下による酸素欠乏のある場合に使用されます。

（2023年3月15日供給分から有効期間が採血後21日から28日に変更）

- 保存温度：2～6°C
- 有効期間：採血後28日間



血漿製剤

複数の血液凝固因子の欠乏による出血ないし出血傾向のある場合に使用されます。

- 保存温度：-20°C以下
- 有効期間：採血後1年間



血小板製剤

血小板の減少、またはその機能低下による出血ないし出血傾向のある場合に使用されます。

- 保存温度：20～24°C
- 有効期間：採血後4日間



高校生ボランティア活動(下通り献血ルーム)

令和6年度から始めた下通り献血ルーム COCOSA の取り組みで、近隣の高校を中心に県内 38 校および「熊本市市民活動支援センター・あいぽーと」の掲示板にて、献血呼びかけボランティアを募集したところ、夏休み期間中を中心に 305 名の申し込みがありました。また、下通りアーケードでの献血呼びかけを中心に、6 時間以上活動をしていただいた生徒には「ボランティア活動証明書」を発行しました。高校生の呼びかけがあった日には多くの献血協力をいただくことができました。

高校別ボランティア申し込み人数

高校名	人数
熊本西高等学校	49
県立熊本北高等学校	5
県立東稜高等学校	38
県立第一高等学校	34
熊本信愛女学院高等学校	32
真和高等学校	28
熊本中央高等学校	11
尚絅高等学校	11
県立宇土高等学校	2
熊本国府高等学校	10
県立熊本高等学校	9
必由館高等学校	7
文徳高等学校	7
県立小川工業高等学校	6
計	305

高校名	人数
1 年生	115
2 年生	161
3 年生	25
中学 1 年生	2
中学 3 年生	2
計	305



熊本県学生献血推進協議会

県内 9 大学から集まる大学生ボランティアによる組織です。各大学内で実施される献血の推進活動をはじめとして、献血イベントや九州各县の学生ボランティアとの交流活動など、若年層への献血普及啓発を中心に展開しています。

協議会加盟大学

- 熊本大学 ● 熊本県立大学
- 熊本学園大学 ● 崇城大学
- 東海大学 (熊本キャンパス)
- 尚絅大学・尚絅大学短期大学部 (九品寺キャンパス)
- 九州ルーテル学院大学
- 九州看護福祉大学
- 熊本保健科学大学



クリスマス献血キャンペーン



崇城大学 3 年
鬼塚 克佳さん (おにつか かつよし)

学生献血推進協議会の活動の幅を広げ、若い方を中心にもっと多くの人に献血をしてもらえるよう、より一層頑張ります。

献血推進・広報活動

① 献血セミナー

県と血液センターでは、若い世代を中心に献血について関心を持っていただくため、高校・専門学校等を中心に講師を派遣し、「献血セミナー」を実施しています。令和6年度は、高校・専門学校合わせて 25 校で開催し、計 5,120 名の皆さんに献血の必要性や重要性を学んでいただきました。



献血セミナーの様子

② 献血イベント

県民の皆さんに献血のことをもっとよく知っていただくために、熊本県学生献血推進協議会と協力するなど、イベントを実施しています。

「愛の血液助け合い運動」 (7月1日~31日)

学生ボランティアによる献血呼び掛け
7月 6 日 (土) 下通りアーケード

全国学生クリスマス献血キャンペーン (12月1日~31日)

学生ボランティアによる献血呼び掛け
12月 15 日 (日)
下通りアーケード、イオンモール熊本 (嘉島町)

「はたちの献血」キャンペーン (1月1日~2月28日)

キャンペーン CM 放送、献血者へ記念品を配付
1月 13 日 (月)
下通りアーケード、イオンモール熊本 (嘉島町)

キッズおしごとチャレンジ in イオンモール熊本

血液センターのコーナーでは、移動採血車内の見学、模擬血液を使用した供給体験、キッズ救護服お着替え体験、車両展示などを実施
9月 15 日 (日) イオンモール熊本 (嘉島町)



▲ 「はたちの献血」
キャンペーン



▼ 「キッズおしごとチャレンジ」



③ 献血キャンペーン

学生・10~30代初めて献血キャンペーン (4月1日~3月31日)

学生 (高校生、大学生、専門学生)
または、10~30 代で初めて献血に
ご協力いただいた方に「3 in 1 充電
ケーブル」プレゼント。



Web 予約キャンペーン (11月1日~3月31日)

Web またはアプリでご予約
の上、400mL 献血にご協力
いただいた方へ「お菓子の
詰め合わせ」プレゼント。



④ 血液センター情報誌「KUBIRU」

献血活動やキャンペーン情報、献血者からいただいた
メッセージなどをご紹介しています。
(年 2 回発行)



ありがとうのメッセージ

大学生の頃 友人に説かれて始めて献血ですが、就職・結婚・出産をしながらなかなか続けることが難しくなりました。しかし50歳を機に再開することになった理由は、父が白血病のためたくさんの輸血にお世話になつたからです。発症から10ヶ月間 辛い治療に耐え、生き抜いた姿がありました。今は空から優しい笑顔で見守てくれていると思います。連れ合いをなくした母をこれからは勞わりながら自分自身も元気で過ごしたいと思います。献血センターでは受付の方、看護師の方、検査の方等丁寧に対応下さい感謝です。

(熊本在住)

41歳のとき、腎臓がんの手術の際に輸血を受けました。お近くの献血をして貰うのが初めてで、お手を貸して下さったお医者様に感謝しております。(熊本在住)

亡き母が生前、くも膜下出血で倒れた時輸血をして貰いました。もう母は亡くなっていますが、それから気が付く献血をするようになります。今日は45回目でした。いちお、50回を目指しています。(熊本在住)



骨髓バンク事業

骨髓バンク事業は、「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律（平成24年法律第90号）」に基づく骨髓・末梢血幹細胞提供あっせん事業者として、日本骨髓バンクが主体となり、日本赤十字社及び地方自治体の協力により行われている公的事業です。

赤血球にA・O・B・ABの血液型があるように、白血球にも型（HLA型）があります。その組み合わせには数万通りあり、骨髓または末梢血幹細胞移植のためには、HLA-A、B、C、DRの4座の適合度を確認することが必要です。兄弟姉妹間では4分の1の確率で一致しますが、非血縁者間では、数百から数万分の1の確率でしか一致しません。そのため、広く一般からドナーを募る骨髓バンクが必要となります。日本で骨髓移植や末梢血幹細胞移植を必要としている患者さんは、毎年少なくとも2,000人を数え、一人でも多くのドナー登録が不可欠です。ドナー登録は、献血ルームや献血バス、一部の保健所で実施しています。申込書の記入と2mLの採血で、所要時間は15分程度です。

なお、令和6年度の本県におけるドナー登録状況につきましては、新規ドナー登録者が1,340人（前年度比94%）、登録者総数は11,341人（令和6年3月末現在）になりました。登録対象年齢人口千人当たりにおける登録者数は16.98人と、全国平均10.51人を上回っています。



骨髓提供の流れ

① ドナー登録

ドナー登録は腕の静脈から約2mLを採血し、HLA型（白血球の型）を調べます。



② 適合したら

患者さんのHLA型と適合した場合は、骨髓・抹消血幹細胞の提供について詳しい説明があります。



③ 最終同意

立会人同席のもとドナー候補者の最終的な提供意思が確認されます。（家族の同意も必要となります）



④ 骨髓提供の場合

通常3泊4日の入院をすることになります。腸骨（腰の骨）から注射器で骨髓液を採取されます。



⑤ 抹消血幹細胞の場合

白血球を増やす薬を3～4日注射し、通常1泊2日の入院をします。腕に針を刺し、血液中の造血幹細胞だけを取り出されます。



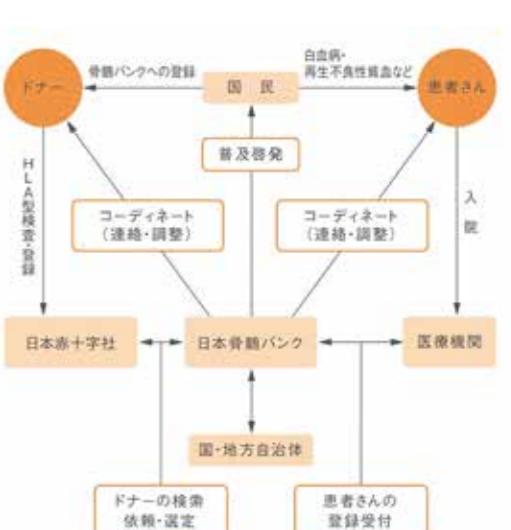
⑥ 提供後、数日内で退院*

（※採取方法によって異なります）

採取後は数日内で退院し、日常生活に戻ることができます。退院後は、健康診断を行うなど、回復するまでフォローアップがあります。



骨髓バンク事業の体系図▼



■ 骨髓バンクに関するお問い合わせ

日本骨髓バンク

TEL 03-5280-1789

（資料請求・問い合わせ専用）平日9時～17時30分
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-19 廣瀬第2ビル7F

<https://www.jmdp.or.jp/>

日本骨髓バンク 検索





熊本市東区長嶺南2丁目1-1 (血液センター1F)

TEL 096-384-6727

■献血受付時間

全 血	9:00~12:00 13:00~16:30
成 分	9:00~12:00 13:00~16:00



- 駐車場完備
- 日・祝日定休日

※土曜日が祝日の場合は開所



熊本市中央区下通1丁目3-8(下通NSビル5F)

TEL 096-325-9218

■献血受付時間

全 血	10:00~13:00 14:00~17:30
成 分	10:00~13:00 14:00~17:00



- 火曜定休日

※火曜日が祝日の場合は開所



献血ルーム
ではこんな
サービスも
充実して
います!



テレビを見ながら
リラックス



Wi-Fi完備!



ドリンクや
お菓子も充実



マンガ本も
そろっています!



移動採血車

移動採血車の日程は、熊本日日新聞(電子版)及び下記ホームページに掲載しております。

詳細については各保健所、各市町村の担当課、血液センターにお問い合わせください。

検査目的の献血は輸血を必要とする患者さんの安全のためにお断りしています。

■エイズ検査は保健所へ… ● 無料、匿名で受けられます。 ● 検査日などは最寄りの保健所へお尋ね下さい。

+ 熊本県赤十字血液センター

〒861-8039 熊本市東区長嶺南2丁目1-1 TEL 096-384-6000(代)

E-mail ▶ kmmmt-somu@qc.bbc.jrc.or.jp

ホームページ ▶ <https://www.bs.jrc.or.jp/bc9/kumamoto/>



最新NEWSや
献血バスの
運行予定など
情報が満載です

熊本県赤十字血液センター